

# 根釧地域における極早生とうもろこしの 無マルチ栽培

<乳牛用給食センターの新技術:素材のつくり方>

### なぜ、今、根釧で無マルチ栽培か

★冷害対策から、これまで、マルチ栽培が主。

長所: 熟度が安定的、多収

短所: 環境問題、播種作業が遅い マルチフィルム代が高くつく

面積増なら 速い安い 無マルチ栽培



でも、極早生品種が必須で、マルチより低収に。

#### 極早生品種でも多収・低コスト

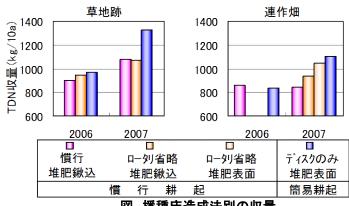
侠畦栽培(畝間を狭くして栽植密度を上げ る)で、生育不良年でも一定以上の収量が 得られます。

播種床を作る際には、簡易耕起(「ディスク ハローのみ」)が可能です。ただし、草地跡 では除草剤で前植生を完全に枯らします。

表 狭畦無マルチ栽培の収量性

<del>X: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX</del>		
慣行畦間栽培対比		
2005	2006	2007
121	121	94
1	152	127
_	92	77
1	4	11
	慣行 2005	慣行畦間栽培 2005 2006 121 121 - 152

注)同一場所・品種ごとにTDN収量の比を算出。 05年;温暖年、06年;温暖寡照年、07年;高温多照年。 07年に指数77を示した品種は極早生ではありません。



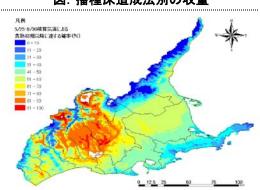
#### 図. 播種床造成法別の収量

#### 地区別に栽培可否を検討

1kmメッシュ「黄熟初期以降に達する確率 マップ」を作りました。パソコンを使って、畑 ごとに情報を検索できます。

## 右図. 黄熟初期以降に達する確率マップ 農業環境技術研究所清野豁が作成したデータおよび アメダスデータのメッシュ化システムを用いた

このマップは、関連するデータとともに、パソコンで自在 に閲覧できる形でCDに入れ、希望される方々に配布い たします。



根釧農試 研究部 作物科 住所 標津郡中標津町旭ヶ丘7番地 電話番号 (0153)72-2004

e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp